



新型インフル

疑いの母子感染なし

米から帰国 県内滞在中に症状



記者会見し、県内に滞在している母子の新型インフルエンザ感染を否定する県関係者＝6日午前8時半、県庁

県内に滞在していた米三九・七度の発熱とせ
国イリノイ州シカゴ在住
の母子に国内初の新型イ
ンフルエンザ感染の疑い
があることが六日未明、
明らかになった。厚生労
働省と県は遺伝子を調べ
る詳細（PCR）検査を
実施し、同日午前八時半、
「感染は否定された」と
発表した。母子ともに入
院中だが、A型インフル
エンザに感染しておら
ず、インフルエンザ自体
に感染していなかった可
能性も出ている。

二人の家族が五日午後
四時すぎ、県保健予防課
に電話で相談した後、指
定病院で診察を受けたと
ころ、簡易検査でインフ
ルエンザのA型、B型と
もに陰性だったものの、
医師が臨床的に新型イン
フルエンザに感染してい
る可能性を疑い、「疑い
患者」として同日午後十
時すぎ、県知事あてに届
け出た。

その後、県衛生環境研
究所と国立感染症研究所
がそれぞれ検査し、六日
朝までに新型インフルエ
ンザに感染していなかつ
たことを確認した。

国から県には、四月二
十九日から五月二日まで
に成田空港から入国した
本県関係の百三十八人分
の健康観察者リストが送
られてきており、今回の
母子もリストに含まれて
いたが、電話番号の記載
がなかったために県から
連絡を取れない状態だっ
たという。

県保健予防課は「初め
てのことで態勢、行動と
もに想定していたことと
異なる点があった」とし、
課内にある感染症危機管
理室の職員の増員などを
検討する考えだ。

県外の 3人も

新型インフルエンザ
感染が疑われたのは三
十代の日本人女性と一
歳未満の男児。二人は四
月二十九日にシカゴ発成
田着の航空機で入国し、
同日日本県入り。今月三日
に男児が三八・七度の熱
を出し、せきの症状がみ
られ、母も五日に発症し、

厚生労働省などによる
と、五日に米国から関西

空港に着いた京都市の小
学生の女兒と中部国際空
港に到着した愛知県的女
子中学生、メキシコから
三日に帰国した京都府の
女兒について、それぞれ
詳細検査を実施。いずれ
も新型インフルエンザに
感染していないことが分
かった。